



うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第 10 号

発行日：平成11年3月31日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷株式会社

谷間に輝く黄金の花 —ダンコウバイ—



春まだ浅い片貝川上流、南又谷。残雪と砂防ダムをバックに日の光を受けて黄金に輝く花が咲いていました。

このダンコウバイという木は、ほかの木々がまだ葉を開かない時期に、マルバマンサクなどとともに黄色の花を咲かせます。

緑の葉が生い茂る夏には目立たなくなってしまうですが、紅葉の時期には葉が黄色く色付き、再び山に彩りを添えます。

(写真展「魚津の花々」から)

あらためて埋没林に注目

学芸員 石須 秀知

地中から、あるいは水中から、太古の森林跡が出現する。近年、青森県、宮城県、静岡県、石川県、福井県、島根県、福岡県、佐賀県など、各地で埋没林の発見が相次いでいます。

魚津埋没林はその中でも“老舗”として知られています。出土した木の株の数、大きさなど一級のものと思われ、国の特別天然記念物にも指定されています。また、埋没林をテーマとした博物館は珍しく、全国から見学者がやってきます。



魚津埋没林の樹根

しかし、忙しいスケジュールの観光客にとって、詳しく解説を読む時間がない場合もあります。そして、大部分の人は埋没林の予備知識を持っていません。展示された埋没林の根っこを見て、「大きいな」とは思っても、それ以上の興味を引き出すのはなかなか難しいことです。根っこが動いて芸をするわけでもないし、歌をうたうわけでもありません。ただじっと座っている根っこについて「興味を持って」という方が無理なのでしょう。

ここで、埋没林とは一体何なのか、という基本的なことから、その持つ意味、魅力などについて書いてみようと思います。

まず、埋没林とは、ということですが、文字どおり「埋れた林」という意味です。ただし、「林」というためには、複数の木がその場に根を張った状態でなければなりません。倒木が流れてきて埋まったものなどは埋没林とはいえません。

さらに、一口に埋没林と言っても、いろいろなタイプがあります。魚津のように川の氾濫と海面の上昇によってできたものばかりではありません。日本では、火砕流や火山灰の降下など火山性のものが多く、そのほか土石流、川のせき止め、地盤沈下などいろいろな原因が考えられます。

また、埋まっている場所もさまざまです。魚津では海に接した陸地で、埋まっている地層は海面より低い部分にあります。富山県の入善町や石川県の松任市などのように、完全に海底から見つかる場合（特に海底林と呼びます）もあれば、内陸の湿地や湖底から見つかる場合もあります。火山性のものは火山の近くで見つかります。

そのほか、埋没林のできた年代や、森林をつくっていた木の種類、樹齢もそれぞれ異なります。



魚津埋没林の発掘（1989年）

このようにさまざまな種類の埋没林があります。これらは何を物語ってくれるのでしょうか。まず、その埋没林のできた原因や年代が特定されることによって、その地域が現在の形になるまでの歴史がわかります。現在我々が生活している空間が、かつては深い森林だったこと、その森林が川の氾濫や火砕流などによって埋め尽くされてしまったこと、そしてそれが何年くらい前のできごとなのかなど、埋没林は過去に起きた劇的な変化を物語ってくれます。



魚津埋没林出土のスギ球果

また、埋没林は木の根だけでなく、森林が繁茂していたその場所全体が埋められているため、周囲には当時の植物の枝や幹、葉、果実、花粉など、さらに動物の骨や昆虫などが密閉状態で保存されています。それらの中には、現在ではその地域では見られない動植物が含まれていることも少なくありません。このような動植物を分析することで、当時の環境も推定することができるのです。単純にその動物や植物がどのような環境(寒冷、温暖、湿潤、乾燥など)を好む種類か、ということはもちろん、例えば木の年輪の幅の変化を測定して気候の変化を推定するなど、いろいろな分析方法があります。

このように過去の自然環境の情報がそっくりパッケージされている埋没林は、何千年、時には何万年もの時間を超えて送られてきた「タイムカプ



出土した昆虫類

セル」ということができます。各地で埋没林が発見され、そのタイムカプセルの蓋が開かれることによって、日本列島の過去の自然の変化が徐々に明らかにされていくのです。

この博物館を見学するときには、この場所がかつて樹齢500年以上の大きなスギの森林だったこと、そして足元の地面の中には、まだまだ多くの情報が眠っているということなどに思いをめぐらせると、埋没林が少し魅力的に見えるかもしれません。



シリーズ

埋没林の仲間たち ⑨

ハンノキ (ハンノキ科)

ハンノキの仲間の多くは、湿地、崩壊地、川原などに生えます。富山県で普通に見られるハンノキの仲間には何種類かあります。平地から低山帯にかけて見られるハンノキ、低山帯から山地帯に多いヤマハンノキ、ケヤマハンノキ、ミヤマカワラハンノキ、ヒメヤシャブシなど、山地帯から亜高山帯のヤハズハンノキ、ミヤマハンノキなどです。

ハンノキの花は2月頃から3月頃にかけて咲きます。茶褐色の雄花が多数ついた穂が、枝にたくさん垂れ下がります。雌花の穂は小さく、気を付けて見ないとただの芽のように見えます。果実は小さな松かさのような形です。

ハンノキは、かつて富山県では稲を乾燥させる稲架(はさ)の支柱に使われていました。稲作の機械化に伴って稲架もめったに見られなくなりまし



ハンノキ属の花と果実

たが、今でも田んぼの中の農道などに大木になったハンノキがぼつんと生えていることがあります。

*

これまでの魚津埋没林の調査では、ハンノキの木材、果実、花粉が発見されています。特に花粉は、スギやマツに次ぐ量が検出されています。

現在の魚津市では、前出のハンノキ属の仲間が水辺や川沿いなど随所に見られます。

お知らせ

●平成11年度の行事予定

○企画展・写真展

- 蜷気楼写真展 7月1日(木)～8月15日(日)
- 企画展「僧ヶ岳」 8月16日(月)～10月31日(日)
- 魚津の美しい自然と祭写真コンテスト作品展
11月1日(月)～12月26日(日)
- 写真展「天然記念物」 1月2日(日)～3月31日(金)

○博物館教室

- 4月24日(土) 松倉城の自然と歴史
- 5月22日(土) 海浜植物と水鳥
- 7月24日(土) 洞杉と蛇石
- 9月25日(土) 沌滝と秋の花
- 10月23日(土) 紅葉と洞杉・蛇石
- 2月26日(土) 蜷気楼の実験と観察

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)…510円 ・小中学生…250円
- 交通 ・JR北陸本線 魚津駅 } 下車1.5km (タクシー…5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩…25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049
ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>
e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp

